

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

Q1. 答え：婉曲

解説：体言「人」の前。「昔、ある所に住んでいたとかいう人」。

Q2. 答え：過去推量

解説：文末。「古き都に花が咲いたであろう」。

Q3. 答え：過去の原因推量

解説：「など」（疑問副詞）と呼応。「どうして昔の人は嘆いたのだろう」。

Q4. 答え：婉曲

解説：体言「僧」の前。「中国に渡ったとかいう僧」。

Q5. 答え：過去推量

解説：文末。「皆、月を愛でたであろう」。

Q6. 答え：過去の原因推量

解説：「いかなる縁にて」（どんな因縁で）と、こんな目に遭った「わけ」を問う言い方なので原因推量。「どんな縁で、こんな目に遭ったのだろう」。

Q7. 答え：婉曲

解説：体言「翁」の前。四段「養ふ」の連用形「養ひ」＋「けむ」。「かぐや姫を育てたとかいう翁」。

Q8. 答え：過去推量（疑問）

解説：「何処へ」は場所を問う語で、わけを問う語ではない。「昔の人は、どこへ行ったのだろう」。

Q9. 答え：婉曲

解説：体言「人ら」の前。竹取物語的。「月の都に住んでいたとかいう人々」。

Q10. 答え：過去推量（疑問）

解説：「いかに」は「どのように」と様子を問う語で、わけを問う語ではない。「昔の歌詠みは、どのように思ったのだろう」。

Q11. 答え：婉曲

解説：体言「国」の前。「古い世に栄えていたとかいう国」。

Q12. 答え：過去の原因推量

解説：「など」（どうして）とわけを問う語と呼応。下二段「生まる」の連用形「生まれ」＋「けむ」。「どうしてこんなにつらい世に生まれたのだろう」。

Q13. 答え：過去推量（疑問）

解説：「いかなる」（どんな）は景色の中身を問う語で、わけを問う語ではない。上一段「見る」の連用形「見」＋「けむ」。「旅人は、この山道で、どんな景色を見たのだろう」。

Q14. 答え：婉曲

解説：体言「鳥」の前。「一晩中鳴きながら飛んでいったとかいう鳥の声を、私は聞かなかった」。「けむ」は自分で見聞きしていない過去のことに使う。

Q15. 答え：婉曲

解説：体言「こと」の前。連用形「あり」＋「けむ」。「昔にあったとかいうことが、今は伝わっていない」。

Q16. 答え：過去の原因推量

解説：「なぜ」（＝どうして）と呼応。「どうして昔の都は捨てられたのだろう」。

Q17. 答え：婉曲

解説：体言「人ら」の前。「過ぎ去った夏、海辺で遊んだとかいう人々」。

Q18. 答え：過去推量（疑問）

解説：「何処に」は場所を問う語で、わけを問う語ではない。「昔の宮殿は、どこにあったのだろう」。

Q19. 答え：婉曲

解説：体言「桜」の前。「この春、都に咲いたとかいう桜を、とうとう見ないで終わってしまった」。

Q20. 答え：過去推量（疑問）

解説：「いかなる人」はどんな人かを問う語で、わけを問う語ではない。「か」の結びで連体形「けむ」。「昔の都の大通りを、どんな人が歩いたのだろう」。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21. 答え：婉曲

解説：体言「書物」の前。「中国の人が書き留めたとかいう書物」。

Q22. 答え：過去推量（疑問）

解説：「いかなる世」は世の中身を問う語で、わけを問う語ではない。「か」の結びで連体形「けむ」。「昔は、どのような世であったのだろう」。

Q23. 答え：婉曲

解説：体言「山」の前。「夜のうちに雪が深く積もったような山は、朝にはたいそう白い」。

Q24. 答え：過去の原因推量

解説：「なぜ」（古文の疑問副詞「どうして」）と呼応。「どうして中国の人は和歌を解さなかったのだろう」。古文では「なぜ」ではなく「など・なぜ・いかで」を用いる。

Q25. 答え：婉曲

解説：体言「人」の前。「月の都を出たとかいう人」。

Q26. 答え：過去推量（疑問）

解説：「いかばかり」（どれほど）は程度を問う語で、わけを問う語ではない。形容詞「悲し」の連用形「悲しかり」＋「けむ」。「都を離れた日、あの人はどれほど悲しかったのだろう」。

Q27. 答え：婉曲

解説：体言「物語」の前。「昔から伝わってきたとかいう物語は、今もなお尽きない」。

Q28. 答え：過去推量（疑問）

解説：「いかなる人」はどんな人かを問う語で、わけを問う語ではない。「か」の結びで連体形「けむ」。「私の祖父は、どんな人だったのだろう」。

Q29. 答え：婉曲

解説：体言「僧」の前。「仏に祈ったとかいう僧」。

Q30. 答え：婉曲

解説：体言「御方」の前。「とても尊くいらっしゃったとかいうお方だ」。

Q31. 答え：過去の原因推量

解説：「いかで」（どうして）とわけを問う語と呼応。四段「来たる」の連用形「来たり」＋「けむ」。「どうして春はこんなに早く来たのだろう」。

Q32. 答え：過去推量

解説：文末（念を押す終助詞「かし」が付く）で、わけを問う語もない。「昔の都の人も、この道を通ったことだろうよ」。

Q33. 答え：婉曲

解説：体言「人」の前。「ぬ」は完了の終止形。「祖父が若い日に知り合ったとかいう人も、今はみな亡くなってしまった」。

Q34. 答え：婉曲

解説：体言「乙女ら」の前。「春の野で若菜を摘んだとかいう乙女たちの姿を、絵に描いてある」。

Q35. 答え：過去の原因推量

解説：「いかで」（古文の疑問副詞「どうして」）と呼応。「どうして悲しい夢を見たのだろう」。古文の疑問副詞には「いかで・など・なぞ・なにゆゑに」がある。

Q36. 答え：過去推量（疑問）

解説：「何方（いづかた）に」は場所を問う語で、わけを問う語ではない。「私の父は、そのころどこにいたのだろう」。

Q37. 答え：婉曲

解説：体言「人」の前。「京に住んでいたとかいう人なので、言葉も上品だ」。

Q38. 答え：婉曲

解説：体言「言葉」の前。連用形「あり」＋「けむ」。「昔の歌にあったとかいう言葉」。

Q39. 答え：婉曲

解説：体言「人」の前。「あの方の笛を聞いたとかいう人は、皆、涙を流したのだった」。

Q40. 答え：過去の原因推量

解説：「いかで」と呼応。「どうしてこのような宝を得たのだろう」。

Q41. 答え：婉曲

解説：体言「人々」の前。「中国に渡ったとかいう人々」。

Q42. 答え：婉曲

解説：体言「月かげ」の前。上一段「見る」の連用形「見」＋「けむ」。「あの人が見たとかいう月の光を、私も今夜眺める」。

Q43. 答え：過去推量（疑問）

解説：「いかなる」（どんな）は中身を問う語で、わけを問う語ではない。「ぞ」の結びで連体形「けむ」。「昔の世に、どんな風が吹いたのだろう」。

Q44. 答え：過去推量（疑問）

解説：「いかに」は「どのように」と様子を問う語で、わけを問う語ではない。連用形「あり」＋「けむ」。「私の母は、若い時にどのようなようであったのだろう」。

Q45. 答え：婉曲

解説：体言「人」の前。「山中に隠れていたとかいう人」。

Q46. 答え：過去の原因推量

解説：「など」（どうして）とわけを問う語と呼応。「ざり」は打消「ず」の連用形。「昔の友は、どうして別れの日にも言わなかったのだろう」。

Q47. 答え：婉曲

解説：体言「頃」の前。カ変連用「き」＋完了「ぬ」連用「に」＋「けむ」。「春が来てしまったとかいう頃、まだ雪深い」。

Q48. 答え：過去の原因推量

解説：「いかなる御縁にて」（どんなご縁で）と、長く生きてきた「わけ」を問う言い方なので原因推量。「どんなご縁で、こんなに長く生きていらしたのだろう」。

Q49. 答え：婉曲

解説：体言「人」の前。「こそ」の結びは形容詞「尊し」の已然形「尊けれ」。「この道をきわめたとかいう人こそ、本当に尊い」。

Q50. 答え：婉曲

解説：「けむ」の後に「こと」を補って「捨てたとかいうこと」と言える形（準体）なので婉曲。「ぞ」の結びは文末の「惜しき」（連体形）で、「けむ」は結びではない。「古い京を捨てたとかいうことが、惜しい」。

【第3部】応用編（Q51～Q80）

Q51. 答え：過去推量（已然形「けめ」、係助詞「こそ」の結び）

解説：徒然草の有名な一節。「中国の人は、これを優れていると思ったからこそ、書き留めて世にも伝えたのだろう」。「思へばこそ」とわけを先に示しているので、伝えたわけを推し量るとみて過去の原因推量とする説もある。

Q52. 答え：過去推量

解説：「を」は接続助詞（逆接「～のに」）。後に「今は訪れる人もいない」と反対のことが続き、「けむ」の後に「こと」は補えないので過去推量。「花の盛りには人も多く集まっただろうに、今は訪れる人もいない」。

Q53. 答え：過去の原因推量

解説：「いかで」（どうして）とわけを問う語と呼応。下二段「生ひ出づ」の連用形「生ひ出で」＋「けむ」。「どうして、こんな田舎に、これほどすばらしい人が育ったのだろう」。

Q54. 答え：婉曲

解説：体言「人」の前。四段「流す」の未然形「流さ」＋受身「る」の連用形「れ」＋「けむ」。「昔、この浦に流されたとかいう人の心を思いやる」。

Q55. 答え：婉曲

解説：体言「寺」の前。連用形「あり」＋「けむ」。「古い世にあったとかいう寺の跡が、今も残っている」。

Q56. 答え：過去の原因推量

解説：「何の契りにて」（どんな前世からの約束で）と、そうなった「わけ」を問う言い方なので原因推量。下二段「初む」の連用形「初め」＋「けむ」。「どんな前世の因縁で、この人と会い始めたのだろう」。

Q57. 答え：婉曲

解説：体言「心」の前＋係助詞「ぞ」。「仏前に祈ったとかいう心が尊い」。

Q58. 答え：過去の原因推量

解説：「何によりてか」（どういうわけで）とわけを問う語と呼応。「か」の結びで連体形「けむ」。「昔の人は、どういうわけで、こんなに多くの物語を書き残したのだろう」。

Q59. 答え：婉曲

解説：体言「頃」の前。「あの人が東国へ下ったとかいう頃、私はまだ幼かった」。

Q60. 答え：過去推量

解説：「けむ」は過去の事柄を推量。3人称「かの人」が主語。「あの人は、若い頃は歌を詠んだのだろうに、今は詠まない」（逆接）。

Q61. 答え：過去推量（疑問）

解説：「いかなる文字」はどんな文字かを問う語で、わけを問う語ではない。「昔の人は、どんな文字を書いたのだろう」。

Q62. 答え：過去推量（疑問）

解説：「何を」は話の中身を問う語で、わけを問う語ではない。「あの二人は、別れの夜に何を語ったのだろう」。

Q63. 答え：婉曲

解説：体言「人」の前。「古い寺を建てたとかいう人」。

Q64. 答え：婉曲

解説：体言「夜」の前。「春雨が降ったとかいう夜に、あの人は琴を弾いたのだった」。

Q65. 答え：婉曲

解説：体言「山際」の前。「月が出たとかいう山際、なお晴れわたっている」。

Q66. 答え：婉曲

解説：体言「やう」の前。四段「言ふ」の連用形「言ひ」＋「けむ」。「昔の人が言ったとかいうように、世の中はただ夢のようだ」。

Q67. 答え：過去の原因推量

解説：「なにしに」（どうして）とわけを問う語と呼応。カ変「来」の連用形「来（き）」＋「けむ」。「どうして、こんな山里に来たのだろう」。

Q68. 答え：婉曲

解説：「けむ」の後に「こと」を補って「住んでいたとかいうことを」と言える。「を」は「語り伝ふ」の目的を示す格助詞なので婉曲。「昔、この池に竜が住んでいたとかいうことを、里の人は今も語り伝えている」。

Q69. 答え：婉曲

解説：ラ変「あり」の連用形「あり」＋「けむ」。体言「御姿」の前なので婉曲。「若い日には玉のようであったとかいうお姿も、今は衰えなされた」。

Q70. 答え：過去の原因推量

解説：「いかで」（どうして）とわけを問う語と呼応。上二段「老ゆ」の連用形「老い」＋「けむ」。「どうしてこんなに老いてしまったのだろうと、嘆く」。

Q71. 答え：婉曲

解説：体言「人」の前。四段「書き写す」の連用形「書き写し」＋「けむ」。「このお経を書き写したとかいう人」。

Q72. 答え：婉曲

解説：体言「花」の前。「家を離れていた間に咲いたとかいう花も、帰って来ると、みな散ってしまっていた」。

Q73. 答え：過去の原因推量

解説：「何の故にか」（どういうわけで）とわけを問う語と呼応。「か」の結びで連体形「けむ」。「どういうわけで、あの人は世を捨てた（出家した）のだろう」。

Q74. 答え：婉曲

解説：体言「人」の前。「山深く隠れ住んでいたとかいう人が、詠み残した歌である」。

Q75. 答え：過去推量（疑問）

解説：「いかにか」（どのように）は様子を問う語で、わけを問う語ではない。「か」の結びで連体形「けむ」。「あの文を見て、世間の人はどうに言ったのだろう」。

Q76. 答え：婉曲

解説：体言「事」の前。「古き人皆が嘆いたとかいう世の事」。

Q77. 答え：過去推量（疑問）

解説：「いづれの国より」は場所を問う語で、わけを問う語ではない。カ変「来」の連用形「来（き）」＋「けむ」。「私の先祖は、どの国から来たのだろう」。

Q78. 答え：婉曲

解説：体言「山里」の前。「春雪が降ったとかいう山里、なお寒い」。

Q79. 答え：過去推量（疑問）

解説：「誰」は人を問う語で、わけを問う語ではない。「か」の結びで連体形「けむ」。「この文を書き残したのは誰だったのだろうと、人々は言い合っている」。

Q80. 答え：婉曲

解説：体言「人々」の前。形容詞「名高し」の連用形「名高かり」＋「けむ」。「昔は名高かったとかいう人々も、今は知る人もいない」。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81. 答え：過去推量（已然形「けめ」、係助詞「こそ」の結び）

解説：「こそ」の結びで已然形「けめ」。「～けめ、」と下に続くので逆接（～ただろうが）。わけを問う語もないので過去推量。「あの人も、心の中ではさぞ嘆いたであろうが、人には少しも見せなかった」。

Q82. 答え：過去の原因推量

解説：源氏物語（桐壺）の一節。疑問の語はないが、「や」で「前の世でもご縁が深かったからだろうか」と、後に書かれた「玉のような皇子まで生まれた」ことのわけを推し量っているので原因推量。「や」の結びで連体形「けむ」。「前世でもご縁が深かったのだろうか、世にまたとなく美しい玉のような皇子までお生まれになった」。

Q83. 答え：婉曲

解説：上一段「用ゐる」の未然形「用ゐ」＋受身「らる」の未然形「られ」＋打消「ず」の連用形「ざり」＋「けむ」。体言「人」の前なので婉曲。「世の中に用いられなかったとかいう人も、後の世には名を上げた」。

Q84. 答え：過去推量

解説：文末で、わけを問う語もない。「昔の歌人も、一首の歌に、このように心を尽くしたであろう」。

Q85. 答え：婉曲

解説：体言「人」の前。下二段「詠み出づ」の連用形「詠み出で」＋「けむ」。「こそ」の結びは過去「けり」の已然形「けれ」（「けめ」ではない）。「このような歌を詠み出したとかいう人こそ、本当に物のあわれを知っていたのだ」。

Q86. 答え：婉曲

解説：「けむ」の後に「こと」を補って「上ったとかいうことを」と言える。「を」は「聞き」の目的を示す格助詞なので婉曲。「父が若い日に京に上ったとかいうことを、母から聞いた」。

Q87. 答え：過去の原因推量

解説：「何ゆゑに」（どういうわけで）とわけを問う語と呼応。「どうしてこの歌だけが世に伝わったのだろう」。

Q88. 答え：婉曲

解説：体言「後」の前。下二段「出づ」の連用形「出で」＋完了「ぬ」の連用形「に」＋「けむ」。「あの人が都を出てしまったとかいう後は、手紙ひとつさえ来ない」。

Q89. 答え：過去推量（疑問）

解説：更級日記の冒頭。「いかばかりかは」（どれほど～か）は程度を問う語で、わけを問う語ではない。「を」は接続助詞（逆接「～のに」）で、「けむ」の後に「こと」は補えないので過去推量。「東国への道の果てよりも、さらに奥の方で育った人（＝作者）は、どれほど田舎じみていただろうに、どう思い始めたことか、世の中に物語というものがあるようなのを、何とかして読みたいと思ひ続けて……」。

Q90. 答え：過去の原因推量

解説：「いかなる宿世にて」（どんな前世からの因縁で）と、忘れられた「わけ」を問う言い方なので原因推量。四段「忘る」の未然形「忘ら」＋受身「る」の連用形「れ」＋「けむ」。「どんな宿縁で、こんなに人に忘れられたのだろうと、泣きながら思う」。

Q91. 答え：婉曲

解説：体言「里」の前。「家々が立ち並んでいたとかいう里の跡に、今は草ばかりが茂っている」。

Q92. 答え：前の「けむ」＝婉曲／後の「けむ」＝過去推量

解説：前の「けむ」は体言「聖」の前なので婉曲（「この庵に住んでいたとかいう聖」）。後の「けむ」は文末で、わけを問う語もないので過去推量（「このように月を眺めたであろう」）。

Q93. 答え：過去の原因推量

解説：「などて」（どうして）とわけを問う語と呼応。「ざり」は打消「ず」の連用形。「ぞ」の結びは「悔しき」（連体形）。「どうして、あの人の言うことを聞かなかったのだろうと、今になって悔しい」。

Q94. 答え：婉曲

解説：体言「人」の前。下二段「仕ふ」の連用形「仕へ」＋「けむ」。「ならずは」は「～でないならば」、「じ」は打消推量。「あの方にお仕えしたとかいう人でなければ、このことは知らないだろう」。

Q95. 答え：過去の原因推量

解説：「など」（どうして）とわけを問う語と呼応。「給ひ」は四段「給ふ」の連用形。「あれほど住み慣れた里を、どうしてお離れになったのだろうと、人々は不思議がる」。

Q96. 答え：過去推量

解説：文末。連用形「あり」＋「けむ」。「過去の日も、こうあったであろう」。

Q97. 答え：婉曲

解説：体言「御方」の前。「後にゐる」は後の位につくこと。「並々ならぬ宿縁で、後の位におつきになったとかいうお方」。

Q98. 答え：婉曲

解説：体言「松」の前。ワ行下二段「植う」の連用形「植ゑ」＋「けむ」。「昔の人が植えたとかいう松が、今も門の前に立っている」。

Q99. 答え：過去推量

解説：文末で、わけを問う語もない。「この川の流れを見て、昔の人でも世のはかなさを思ったであろう」。

Q100. 答え：婉曲

解説：体言「人々」の前。「物のあわれを知ったとかいう人々の心、今も私に伝わる」。